

学校名	北海道札幌啓北商業高等学校
-----	---------------

## 平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成～

#### 2. 研究の目的

本研究は、札幌市立で唯一の商業高校である本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結び付くことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情動的資源を適切に活用する「マネジメント能力を身に付けた職業人の育成」を目標とする教育プログラムの開発を目的としている。

マネジメント能力を身に付けた職業人の育成

観光、MICE、国際交流、地域ビジネス、起業家教育

図 1 教育プログラム開発の目的

具体的には、札幌という地域性を考慮して、『観光』、『MICE』、『国際交流』、『地域ビジネス』及び『起業家教育』の 5 つの分野（以下、「5 つの分野」と略し、その学びを「5 つの“知”」という。）に重点を置き、生徒一人一人が、『札幌』という地域社会とつながりながら、互いに協働して、地域やビジネス上の課題を見出し、解決しながら新たな価値を創り出していくことにより、マネジメント能力を育み、社会的・職業的に自立する能力を身に付けることを目指している。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 30 年 3 月 15 日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

##### (1) 育成する人材像

本研究を通じて、人的資源、物的資源、財務的資源及び情動的資源を適切に活用するマネジメント能力を身に付けた職業人を育成する。それによって、社会的・職業的に自立し、札幌の未来を担う人材、即ち、『5 つの“知”を紡ぎ、札幌の未来を啓く人』が地域を活性化させ、札幌のさらなる発展、未来の創造に寄与する人材の育成を目標としている。

##### (2) 求められる資質・能力

本研究では、5 つの分野に重点を置いた実践的な教育プログラムを通して、次の能力を基盤とした『マネジメント能力』の育成を図る。

- ・ビジネスマナーとコミュニケーション能力 ・協調性・協働性 ・リーダーシップ
- ・企画力・創造力 ・顧客満足実現能力 ・ビジネス探究能力 ・会計情報提供・活用能力
- ・情報処理・活用能力

そのために、今年度は、ア. 未来を創造するために必要となる知識や技術を身に付けるとともに、実際のビジネスを理解し、それを基とした実践を通じて、現状を知り、マネジメント能力の基盤となる力を身に付ける学習プログラムの実施と検証、イ. 各活動の先進的な取組の調査及び次年度実施する学習プログラムの開発を行う。

### (3) 学習プログラムの開発

ア. 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける学習プログラム

(ア) 互いに知識と意識を共有する「協調性・協働性」の育成

【観光分野の取組】

「地元、札幌を知る」

～ さっぽろ未来創生プランの作成・みんなで取り組む地域のまちづくり

#### ① 概要

- ・「5つの分野」の活動を始めるにあたり、導入として、講話を通じて、地元、札幌についての現状や将来についての基礎的・基本的な知識を習得する。
- ・自分たちが考える「札幌の現状と将来像」についてグループ・ディスカッションを行い、互いの知識と意識を共有する力を育成する。
- ・グループ・ディスカッションした内容を発表することで、全体で意識の共有を行うとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- ・これらの活動の中から、自分の意見を述べるだけでなく、他人の意見を尊重した上で、グループで協力し活動を実施する意識や態度を身に付けることによって、協調性・協働性を育成する。

#### ② 実施時期及び期間

6月～7月の9時間及び10月の9時間 計2回

#### ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」 240名全員に実施

#### ④ 具体の学習プログラム

各活動の基礎・基本となる知識を習得するために、出前授業による講話を行い、札幌の現状についての理解を深めるとともに、札幌が目指すべき将来像を知る。

1回目(6～7月)は、「札幌全体の現状と将来像について」、2回目(10月)は、本校のある「札幌南区という地域の現状と将来像について」をテーマとして取り上げる。

- ・学習の初めに、生徒の知識及び意識について、事前にアンケート調査を行う。
- ・それぞれの分野について、札幌市役所や札幌市まちづくりセンターの方を講師として、講話をいただく。
- ・講話の振り返りとして、それぞれの感想、疑問点、自分のアイディアなどをレポートとしてまとめる。
- ・レポートをもとにグループ分けをして、それぞれ発表の後、各テーマについてグループ・ディスカッションを行う。

- ・グループディスカッションした内容を発表し、情報や意識の共有を行う。
- ・入学後初めての発表であることから、プレゼンテーションについての知識と経験を高める。
- ・学習の振り返りとして、取組全体の感想や理解したことなどのレポートを作成することで、学習活動のまとめとする。
- ・取組状況やアイデア、感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

#### ⑤ 学習評価の方法

- ・札幌の現状や将来像についての知識については、レポート及び定期考査で評価を行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べるができる度合いを基準とする）や他己評価（他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（両者の差異を基準とする）を行う。

(イ) 新たな起業に向けて、互いのアイデアを尊重する「企画力・創造力」の育成

【起業家分野の取組】

### 「起業家の基礎」～ ビジネスアイデアはどのように創出するのか

#### ① 概要

- ・起業についての講演を通じて、「ビジネス基礎」で学習したビジネスについての理解を深めるとともに、起業するために必要な経営組織、資金調達、雇用などについて理解する。
- ・講演「起業の成功例や失敗例、起業案づくり」の中で紹介される事例を通して、起業に関する興味・関心を高める。
- ・アイデア創出技法を身に付ける。
- ・起業案作成体験やその後のグループによる起業案の創出などの活動により、与えられた条件から、自らの力で起業案を作成に不可欠な考察力や分析力を身に付ける。
- ・自分のアイデアを主張するだけでなく、他者のアイデアを受け入れてより良い起業案を作成していくことで、互いに協働して新しいものを創り出す力を身に付ける。

#### ② 実施時期及び期間

12月の8.5時間（0.5時間はテスト返却後、事前アンケートを行う時間）

#### ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」 240名全員に実施

#### ④ 具体の学習プログラム

「ビジネス基礎」で学んだ知識をもとに、起業に関する講演を通じて、起業意識の向上を図る。また、講演中に指示される条件を用いて起業アイデアを創出、発表することによって、来年度以降の起業挑戦やクラウドファンディングの学習に向けた意欲を高める。

- ・学習の初めに、生徒の起業意識について、事前にアンケート調査を行う。
- ・「ビジネス基礎」において、起業に必要な経営組織、資金調達、雇用などの企業活動の基礎について学習する。
- ・授業で学んだことをさらに深めるため、ベンチャービジネスの講演を聞く。
- ・現在までに学習した「ビジネス基礎」での知識を活用し、講演で設定された人材面や資金面などの条件をもとに、簡単な起業案を作成する。

- ・各自の起業案をもとに、アイデア創出技法を用いてアイデアを収束し、グループ毎に起業案を作成する。その際は、自分の意見を発表するだけでなく、問題点や参考になる点をお互いに発表することによって、より価値のあるアイデアになることに気付かせる。
- ・グループごとに起業案を発表し、クラス内でコンテストを行う。このことにより、全体で意識の共有を行う。
- ・学習の振り返りとして、体験の感想や身に付いたことをレポートとしてまとめる。さらに、起業の意識がどのくらい高まったかを知るために、事前・事後のアンケート調査を行う。
- ・取組状況やアイデア、感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

#### ⑤ 学習評価の方法

- ・「ビジネス基礎」で学んだ企業活動の基礎知識については、定期考査及び小テストで評価を行う。
- ・起業案については、各クラスでコンテスト形式をとり、教員評価だけではなく、生徒の相互評価も行う。
- ・グループ・ディスカッションやプレゼンテーションについては、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べることができる度合いを基準とする）や他己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（例：両社の差異を基準とする）を行う。

#### (ウ) ビジネスに必要な「会計情報提供・活用能力」の育成

##### 「ビジネスに関する計算の基礎」～ 企業のデータを利用したビジネス計算を学ぶ

#### ① 概要

- ・実際の企業のデータを利用し、より実務に即したビジネス計算をさせることによって、今後実施する取組において必要な原価計算や価格設定、貨幣換算などをする際に必要な計算の基礎・基本を身に付ける。
- ・これらの取組や今後の他科目の指導により、マネジメントに必要な会計情報提供・活用能力の基礎・基本を育成する。

#### ② 実施時期及び期間

9月の6時間

#### ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」 240名全員に実施

#### ④ 具体のプログラム

「ビジネス基礎」の科目内容のうち、「売買に関する計算」を指導する際に、企業のデータを利用したり、ビジネスの現場で実際に行われている例を提示したりすることにより、より実務に即したビジネス計算をさせる。さらに、ここでの学習内容を、今後行われる観光プランや商品開発時の価格設定や売買計算、外国との取引に必要な換算などに生かす。

さらに、来年度以降実施する起業の取組や財務会計など学習を経て、マネジメントに必要な会計情報提供・活用能力を身に付ける。

#### ⑤ 学習評価の方法

売買に関する計算がどの程度できるようになったかについて、定期考査及び小テストで評

価を行う。

(エ) 地域の産業を新たなビジネスとして捉える「ビジネス探究能力」の育成

【地域ビジネス分野の取組】

「地域ビジネスの基礎」～札幌における新たなビジネスの振興

① 概要

- ・地域の特性や個性をビジネスに生かし、地元産業の活性化に貢献できる人材の育成のため、地元札幌に密着し、先進的な取組を進めている企業と連携してその経営の歩みを研究し、ビジネスとしての新たな可能性を模索する。
- ・今年度は、「地域ビジネスの意義や先進的な取組」についての講話を行い、実際に地域と取り組んだ事例から、地域の課題や取組をビジネスの視点でどのように捉えるか、ビジネスを探究する意識付けを行う。
- ・これらの活動により、地域の産業を活用し、地域に根差したビジネスの新たな方向性を探り、新しいビジネスにつなげる能力を育成する。

② 実施時期及び期間

10月～11月の4時間

③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」 240名全員に実施

④ 具体の学習プログラム

- 各地で先行する地域ビジネスの取組を参考にし、夏休み期間中に実施した国内研修の成果を取り上げるとともに、地域ビジネスについての専門家もしくは本校教員によるビジネスの基礎的・基本的な知識を理解するための講話を実施する。
- ・学習の初めに、地域ビジネスについての知識や意識について、アンケート調査を行う。
  - ・夏休み期間中に実施した国内研修に、代表として派遣した生徒から、地域ビジネスに関する報告を受け、地域ビジネスについての学習の導入とする。
  - ・地域ビジネスの意義やこれからの可能性について、専門家もしくは国内研修に引率した本校教員から講話を受ける。
  - ・実際の事例より、さらにどのような取組が考えられるか、クラス内でアイデアを創出する。その際は、アイデア創出技法を使い多くのアイデアが出るようにする。
  - ・学習の振り返りとして、創出されたアイデアを使い、札幌の地域ビジネスとして新たに何ができるか、レポートをまとめる。さらに、生徒の意識がどのくらい高まったかを知るために、事後のアンケート調査を行う。
  - ・取組状況やアイデア、感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

⑤ 学習評価の方法

- ・講話内容をまとめたレポートによって、「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。
- ・取組の前後でどのくらい意識が変わったのかをアンケート調査で測定する。

(オ) 地域の良さを生かした「顧客満足実現能力」の育成

【MICE分野の取組・観光分野の取組】

「国際観光の動向と札幌MICEを知る」

～ 道内バス研修を通じて、直に見る、直に聞く

① 概要

- ・観光分野に関して、北海道の先進的な取組をしている地域を見学し、「地域の現状や取組内容について」の講話を受けることによって、本校の観光学習に生かす。
- ・MICE施設の見学及び札幌のMICEを担当している方から「MICEの基礎的・基本的知識と札幌の現状について」の講話を受けることによって、これから行われる本校のMICE学習に生かす。
- ・外国人観光客が訪れる宿泊施設を実際に訪れ、施設の責任者から講話やインタビューをすることにより、顧客満足やホスピタリティとは何かを考え、身に付ける。
- ・外国人への観光動向調査や観光地域のフィールドワークをすることにより、コミュニケーションの基礎・基本や積極性を身に付ける。
- ・これらの活動により、今後行われる観光プランの作成やMICEビジネスにおけるイベントプランの作成に生かすための顧客満足実現能力を身に付ける。

② 実施時期及び期間

6月上旬（バス研修1日・事前事後学習5時間）

③ 教育課程上の位置付け

1年生 商業科「ビジネス基礎」 地理・歴史科「地理A」  
外国語科「コミュニケーション英語I」・「英語会話」 240名全員に実施

④ 具体の学習プログラム

観光・MICE学習の導入として、地元北海道の現状を生徒自らの目で見て、さらに講話やインタビュー、調査をすることにより、自らの耳で聞く体験をする。

1年生（6クラス・240名）を2つの班（3クラス・120名）に分けて、(a) 北海道の国際観光における先進的な取組をしているニセコ町と (b) 国際便が飛ぶ空港のある千歳市及びMICE施設見学のため札幌市を目的地として、日帰りバス研修を行う。

- ・学習の初めに、生徒の意識について、事前のアンケート調査を行う。
- ・事前学習として、それぞれの見学地の地理的な知識、簡単な歴史などを授業にて学ぶ。（地理歴史科「地理A」）さらに、外国人へのインタビューのために、英語でのインタビューや質問の仕方について、簡単なロールプレイによるトレーニングをする。（外国語科「コミュニケーション英語I」・「英語会話」）
- ・ニセコ町方面へ行く班については、ニセコの観光の現状や取組状況、外国人観光客の動向などの講話を聞いた後、ホテル・コンドミニアム等の施設見学、そこに働く責任者の方から英語で説明を受け、簡単な英語でのインタビュー調査を実施する。その際には、外国人がなぜニセコを訪れるのか、その対応や宿泊施設ならではのホスピタリティについてお話ししていただき、顧客満足実現能力の育成につなげる。

- ・千歳市方面へ行く班については、新千歳空港の概要、外国人観光客の動向などの講話を聞いた後、施設を利用する外国人観光客に対してインタビュー調査を行う。その後、札幌市のMICE関連施設の見学を行い、担当者より札幌MICEの現状について説明を受ける。
- ・事後学習として、それぞれの班から研修の概要やインタビュー調査の結果などを報告し、情報の共有を図る。また、それまでに利用したワークシート、記録シート、写真、メモなどからポートフォリオを各自作成させる。このポートフォリオは今後の観光やMICEの学習に役立てる。
- ・学習の振り返りとして、作成したポートフォリオを見て、取組についてのレポートをまとめる。さらに、生徒の知識及び意識がどのくらい変わったかを知るために、事後のアンケート調査を行う。
- ・取組状況や感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

#### ⑤ 学習評価の方法

- ・各見学先の地理的な事項については、定期考査で評価を行う。
- ・外国人観光客や施設責任者へのインタビューについては、評価基準表によるパフォーマンス評価を行う。
- ・事前、当日、事後の取組状況については、ポートフォリオを評価する。
- ・取組の前後でどのくらい意識が変わったのかをアンケート調査で測定する。

### (カ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成 【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知る」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

#### ① 概要

- ・札幌で行われるイベントで外国人観光客を案内することを目標に、語学能力を高めることや外国の習慣・慣例を知ることにより、国際的なサービス能力やコミュニケーション能力を育成する。このことにより、グローバル人材を育成する一助とする。
- ・札幌の国際都市としての状況を、プレゼンテーションを通じて理解する。

#### ② 実施時期

6～7月の8時間及び、9月の6時間及び3月の2時間 計3回

#### ③ 教育課程上の位置付け

1年生 商業科「ビジネス基礎」

外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」・「英語会話」 240名全員に実施

#### ④ 具体の学習プログラム

今後実施する外国人観光客への対応やMICEイベントでの対応がスムーズにできるよう外国語科の協力のもと、語学やコミュニケーションについてトレーニングをする。(外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」・「英語会話」)さらに、国際都市としての札幌の現状を調査・発表により理解を深める。(商業科「ビジネス基礎」)

- ・取組前後にアンケート調査による意識調査を行い、国際都市としての札幌の状況への理解度を調べる。
- ・講話「観光都市さっぽろ」を聞き、プレゼンテーションを行う。

- ・外国人との会話で用いる表現を、予測できない状況下でどのくらい活用できるか、外国人に対する対応のトレーニングを行う。
- ・取組状況や感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

#### ⑤ 学習評価の方法

- ・外国人に対応する際の意識の違いを、取組の前後でどのくらい変わったのかを測定する。
- ・外国人との会話については、トレーニング前後の語彙の変化量を測定し、パフォーマンス評価を行う。
- ・プレゼンテーションは、ルーブリックを利用した自己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べる度合いを基準とする）や他己評価（例：他の意見を尊重した意見を述べている度合いを基準とする）及び教員評価（例：両社の差異を基準とする）を行う。

### (キ) 正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成

#### 「情報の取捨選択をする」～ 必要な正しい情報の見分け方を学ぶ

#### ① 概要

- ・今後、各取組においてレポートを書く際に必要となる、情報を選択し信頼できる情報かを見極め、活用できる力を育成する。さらに、今後の取組で必要となる新しいビジネスを考える上で必要な情報を選択し分析する力や、そこから課題を発見し、主体的に対応する能力を育成する。

#### ② 実施時期

1 1月の2時間（「ビジネス基礎」の授業時間数）

#### ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」・「情報処理」 240名全員に実施

#### ④ 具体の学習プログラム

本研究開発においては、それぞれの取組においてレポートを書かせる場面が多くある。その際に必要となる情報を選択し、信頼できる情報かを見極める力を身に付けるため、最初のレポートを書く前に学習を行い、それをレポートに活用できるようにする。

- ・「ビジネス基礎」の科目内容である「情報の入手と活用」を学習し、必要な情報の入手法や活用法を学ぶ。さらに、その際には多様な情報源を使うこと、信頼できる情報源を使うことに配慮させる。なお、インターネットによる情報の収集や情報の分析については、「情報処理」でも取り扱うこととする。

#### ⑤ 学習評価の方法

課題に対し、適切かつ正しい情報を使えたか、ルーブリックを利用した自己評価及び教員評価によって評価を行う。

### (ク) 「リーダーとなる力（リーダーシップ）」の育成

【MICE分野の取組】

#### 「イベントを知る」～ 札幌で行われるイベントへの参加

#### ① 概要

- ・観光、MICEや国際交流の各活動で学んだ事項を利用して、札幌で行われるイベントに



参加し、今後行われるイベントや事業企画の導入とする。

- ・ イベントを企画運営する組織からイベントのプロジェクト管理など、運営側として必要な事項を体験的に学ぶ。

- ・ 生徒の代表として、これらの活動を行い、それを全体に伝えることにより、リーダーシップの醸成を行い、来年度以降のイベントをリーダーとして率いる力を育成する。

## ② 実施時期

9月（イベント実施時期）

## ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」・学校行事 代表者数十名で実施

## ④ 具体の学習プログラム

今後行われるイベントや事業企画の参考とするために、代表生徒が現在札幌で開催している祭りやイベント（オータムフェスト）に参加し、企画、運営、販売の体験をする。

- ・ 取組の前後でどのくらい意識が変わるか、アンケート調査を実施する。
- ・ 各クラスから、来年度以降MICE分野の取組における中心となる生徒を募り、選出する。
- ・ 代表生徒が、今年度各地で実施する観光イベントやMICEイベントを選択し、参加を申し出る。その際は、生徒たちが主体的に参加できるように配慮する。
- ・ 参加するイベントでは、物販などのブース運営、外国人観光客への通訳ボランティアだけではなく、イベントの企画、運営など今後、リーダーをして活動する際に必要な意識や態度などを身に付けるため、イベント運営組織からプロジェクトの遂行方法や工程管理などのプロジェクト管理についても体験的に学ぶ。
- ・ イベント参加者と直接コミュニケーションをとることで、最新のニーズを把握する。
- ・ 活動終了後、来年度のイベント企画に生かす視点で、学年全員を対象に参加報告会を行う。
- ・ 取組状況や感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

## ⑤ 学習評価の方法

- ・ 意識調査の前後でどのくらい意識が変わったのかをアンケート調査で測定する。
- ※ この教育プログラムが代表者によるものであるため、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善をするためのものとする。

## (ケ) 実際に即した「ビジネスマナー」を使える能力の育成

「実際のビジネスで使ってみる」～ 基本的ビジネスマナーの実践

### ① 概要

本研究開発3. (ク)の活動と連動して、札幌で行われるイベントに参加し、その企画運営する組織との対応を通じて、ビジネスマナーの実際を体験的に身に付ける。

### ② 実施時期

9月（イベント実施時期）

### ③ 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」・学校行事 代表者数十名で実施

### ④ 具体の学習プログラム

今後行われるイベントや事業企画の参考とするために、代表生徒が現在札幌で開催してい

る祭りやイベント（オータムフェスト）に参加する。その際に、イベントを企画運営する組織との対応をする際に、授業で学んだ事柄を実際に使うことによって、ビジネスマナーを実践する。

・イベントを企画運営する組織との対応について、「ビジネス基礎」で学んだビジネスマナーを実際に利用し、電話対応や来訪の対応など、場面に合わせた活用をする。

・取組の前後でどのくらい意識が変わるか、アンケート調査を実施する。

#### ⑤ 学習評価（効果測定）の方法

・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったのかを測定する。

※ この教育プログラムが代表者によるものであるため、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善をするためのものとする。

### (コ) 活動の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成

#### 【観光分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

#### 「来年度の活動につなげる」～ 生徒国内及び海外研修

#### ① 概要

・観光分野やM I C E分野、地域ビジネス分野について、最新の情報を入手し、今後の活動の参考とするために、代表生徒が大学や関係機関にて研修を受ける。

・国際交流及び外国での取組を推進するために、海外の交流校を新規に開拓し、代表生徒が、今後の活動の橋渡し役をすることにより、他者とのコミュニケーション能力を育成する。

#### ② 実施時期

・生徒国内研修：8月の2泊3日

・生徒海外研修：12月の3泊4日

#### ③ 教育課程上の位置付け

学校行事 生徒国内研修（東京・横浜）：代表8名

生徒海外研修（台湾）：代表10名 で実施

#### ④ 具体の学習プログラム

観光やM I C E分野、地域ビジネス分野に関する大学や関係機関へ生徒を派遣し、最新の情報や取組を学習する。また、その研修内容については、発表を行う機会を設け、対象生徒全体に還元する。さらに、派遣生徒は、来年度以降それぞれの分野で活動の中心となる。

・取組の前後でどのくらい意識が変わるか、アンケート調査を実施する。

・各クラスから来年度以降、各ユニットの中心となる生徒を募り、選出する。

・生徒国内研修については、観光分野及びM I C E分野については、大学にて研修を受ける。

また、地域ビジネス分野については、関係官庁を中心に各機関で研修を受ける。内容については、各分野の最新の動向や問題点の講義やフィールドワークなどを行う。

・生徒海外研修については、海外の交流校を開拓し、交流のさきがけとして、生徒を派遣し交流の橋渡しを行う。研修内容については、交流校との交流内容の決定など、今後双方でどのような交流ができるかを話し合い、決定する。

・活動終了後は、今後の活動に生かす視点で、学年全員を対象に参加報告会を行う。

・取組状況や感想については、公開できる範囲でHPなどに載せ、関係機関や広く一般からもコメントを求める。

#### ⑤ 学習評価（効果測定）の方法

- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったのかを測定する。
- ※ この教育プログラムが代表者によるものであるため、これらの学習評価を教師の指導の評価とし、必要に応じて改善をするためのものとする。

イ. 各活動の先進的な取組の調査及び次年度指導内容等の検討

来年度以降の学習プログラムを開発するために、各活動の先進的な取組をしている企業や関係機関に対し、電話やアンケートにより、取組内容や規模、実施において考慮している点を調査する。

また、来年度は、次の資質・能力を育成する学習プログラムを実施することから、今年度は関係機関との事前打ち合わせや事前視察及び学習プログラムの開発を行う。

- ①「マネジメント能力」の育成 … 人的資源、物的資源、財務的資源、情動的資源を生かしたイベントの企画・立案、地域の企業との連携授業
- ②「プロジェクトを管理する能力」の育成 … イベントの企画・立案
- ③「顧客満足実現能力」の育成 … 観光客が求める新たな観光プランの作成
- ④「企画力・創造力」及び「リーダーシップ」… 地域の企業との連携事業
- ⑤「ビジネス探究能力」、「会計情報提供・活用能力」及び「情報処理・活用能力」  
… 起業挑戦（クラウドファンディング）
- ⑥「ビジネスマナー・コミュニケーション能力」・「協調性・協働性」  
… 交流校訪問・商品開発

(4) 研究成果の普及

これらの研究成果については、「SPH成果中間発表会」及び「市立高校プレゼンテーション大会（仮称）」において報告して全体で共有する。

なお、その際には、教育関係者や企業などの外部連携機関にとどまらず、広く市民に公開して、研究成果の普及を図る。また、実施状況については、実施内容や反省、改善点などを記したショートレターをその都度HPに公開、メーリングリストで周知し、内外にその実施内容の評価を求める。また、年度最終に作成した報告書は、HPで公開するとともに、関係機関に配布し、コメントを求める。

5. 実施体制

(1) 研究担当者

本校の研究開発は、5つの分野である『観光』、『MICE』、『国際交流』、『地域ビジネス』及び『起業家教育』について、ユニットを構築する。全教職員はいずれかのユニットに所属する。各ユニットは、具体的な取組内容の企画を行い、各教科、学年団、各分掌等がSPH事業を実施する際の支援を行う。

氏名	職名	役割分担・担当教科
尾崎 寿春	校長	統括
久保 一明	教頭	連絡調整
羽山 慶一	事務長	財務担当責任者、予算管理・経理事務
添田 裕一	教諭	ユニット統括、総務部長、商業科
石山 俊央	教諭	観光ユニット責任者、商業科
町田 一也	教諭	観光ユニット担当、国語科

財前 慎一	教諭	MICEユニット責任者、商業科
鈴木 勝寶	教諭	MICEユニット担当、国語科
斉藤 光明	教諭	MICEユニット担当、学年主任、地歴公民科
濱谷 信一	教諭	MICEユニット担当、学年主任、数学科
佐々尾 知	教諭	国際交流ユニット担当、英語科
西岡 哲哉	教諭	地域ビジネスユニット責任者、保健体育科
成田 和弘	教諭	起業家教育ユニット責任者、商業科
西田 典博	教諭	起業家教育ユニット担当、商業科
羽澤 直敏	教諭	広報担当、教務部長、商業科
中野 隆史	学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務
すべての教員	教諭	すべての教科

## (2) 研究推進委員会

S P H運営指導委員会及び札幌市教育委員会の指導・助言を受け、各取組の企画立案や連携先機関（大学・学校・教育機関、企業等）との調整を図り、各ユニットにおける事業の実施を推進する。本校の従来の組織である未来商学科推進委員会がS P H研究推進委員会として企画・調整を行う。

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
尾崎 寿春	北海道札幌啓北商業高等学校 校長	全体統括
久保 一明	北海道札幌啓北商業高等学校 教頭	連絡調整
羽山 慶一	北海道札幌啓北商業高等学校 事務長	財務担当責任者、予算管理・経理事務
添田 裕一	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	取組企画立案統括、渉外担当 「次年度指導内容等の検討」企画立案担当
石山 俊央	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「地元、札幌を知る」企画立案担当
町田 一也	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「地元、札幌を知る」運営担当
財前 慎一	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「国際観光の動向と札幌MICEを知る」企画立案担当 「イベントを知る」企画立案担当
鈴木 勝寶	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「各活動の先進的な取組の調査」企画立案担当
斉藤 光明	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「イベントを知る」運営担当
濱谷 信一	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「来年度の活動につなげる」企画立案担当
佐々尾 知	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「国際都市としての札幌を知る」企画立案担当
西岡 哲哉	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「地域ビジネスの基礎」企画立案担当
成田 和弘	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「起業家の基礎」運営担当
西田 典博	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	「起業家の基礎」企画立案担当
羽澤 直敏	北海道札幌啓北商業高等学校 教諭	取組の記録及び広報担当 (HP等)
中野 隆史	北海道札幌啓北商業高等学校 学校事務職員	財務担当、予算管理・経理事務

## (3) 運営指導委員会

本校のS P H事業について、第三者の立場からそれぞれの専門分野について、指導助言をしていただくとともに、来年度以降の各教育プログラムについて助言をいただく。

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
穴戸 学	横浜商科大学 商学部 観光マネジメント学科 教授	「地元、札幌を知る」指導・助言、観光分野
森 有史	札幌市経済観光局 観光・MICE推進部長	「イベントを知る」指導・助言、MICE分野
豊島 誉弘	札幌国際プラザ 事務局長	「国際都市としての札幌を知る」指導・助言、国際交流分野
尾崎 正則	公益財団法人日本オリンピック委員会 表彰部門部長 理事	「地域ビジネスの基礎」指導・助言、地域ビジネス分野
伊藤 博之	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役	「起業家の基礎」指導・助言、起業家教育分野
岡部 善平	小樽商科大学 商学部 教授	教育プログラム全般の指導・助言、教育カリキュラム分野
沼田 和之	株式会社北海道銀行 地域振興公務部 部長	マネジメント教育の指導・助言、経営マネジメント分野
廣川 雅之	札幌市教育委員会 学校教育部 教育課程担当課長	推進状況についての指導・助言
幸丸 政貴	札幌市教育委員会 学校教育部 教育課程担当課 高等学校担当係長（指導主事）	推進状況についての指導・助言

#### （４）札幌市教育委員会における支援体制

本研究事業においては、札幌市教育委員会と札幌啓北商業高校とが一体となって実践研究を推進するために、札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課長及び指導主事の２名が、SPH運営指導委員として加わるとともに、運営指導委員会とは別に毎月１回をめぐりに、学校訪問を実施し推進状況について実地調査を行い、直接的な支援・助言を行う。

また、本市が設置する唯一の職業学科である当該校に対しては、これまでも就職指導加配教員を１名配置しているが、引き続きこの体制を維持し、本研究開発を通じて生徒一人一人の社会的・職業的な自立を積極的に支援していく。

さらに、市立高校全教員が参加する教科別研究協議会の商業部会において、全国指導主事会で得られた教育課程に関する最新の動向を周知するとともに、当該校以外に商業に関する科目を開講している市立札幌大通高等学校の教員との研修を通じて、本事業の成果を取り入れ授業力向上を支援していく。

(5) 校内における体制図

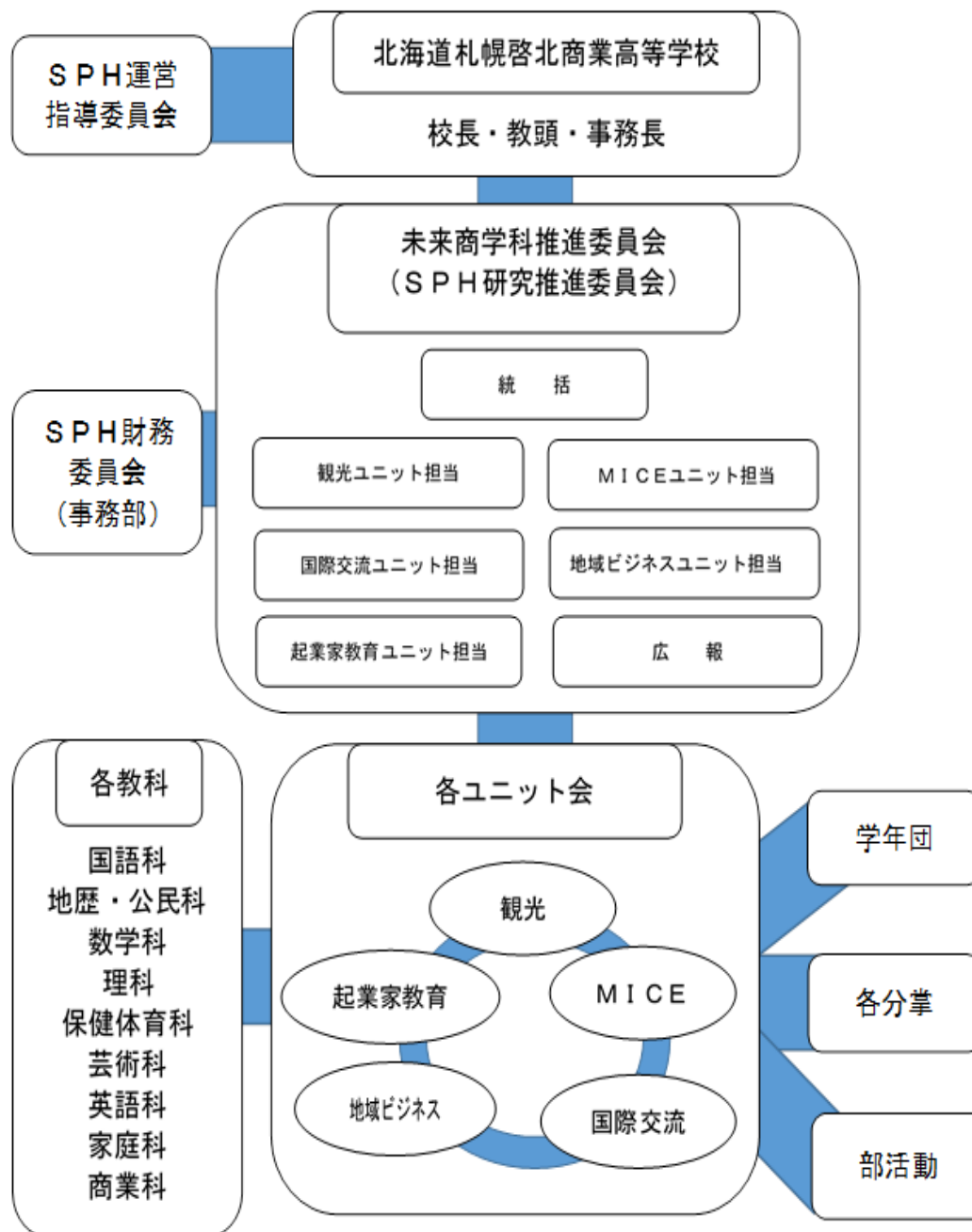


図2 校内における体制図

6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地元、札幌を知る			○	○			○					

起業家の基礎									○			
ビジネス計算の基礎						○						
地域ビジネスの基礎							○	○				
国際観光の動向調査と札幌MICEの実際を知る			○									
国際観光都市としての札幌を知る			○	○		○						○
情報の取捨選択をする								○				
イベントを知る						○						
実際にビジネスで使ってみる						○						
来年度の活動につなげる					○				○			
各活動の先進的な取組の調査及び次年度指導内容等の検討			○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※実施時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

#### 7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
特になし				

#### 8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

#### 9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・**無**

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

#### II 委託事業経費

別紙1に記載

#### III 事業連絡窓口等

別紙2に記載